

しりとり必勝法!?



しりとりは、相手が言った言葉のおしまいの音を取ってきて、それが最初に付く言葉が続けます。どの音で始まる言葉が少ないかを知っておくと、ぐんと有利になりますね。

国語辞典の真ん中あたりを開いてみてください。サ行の後半ぐらいになるでしょう。日本語の言葉の半分はア行、カ行、サ行で始まっているのです。少ないのはラ行です。ラ行には、「ランチ」「リズム」「レジャー」といった外国から来た言葉が多いことに気づきます。奈良時代より前、日本語には最初がラ行の言葉はありませんでした。「落第」「理解」「礼儀」はラ行で始まっていますが、これら漢字を音読みで読む熟語は、もとをたどれば、中国から入ってきた外来語です。

今も外来語は増え続けています。ラ行で始まる言葉も多くなっているでしょう。でも、もともとの日本語になかったので、ほかと比べれば少ないはず。「まくら」「ユリ」「ウクレレ」など、ラ行で終わる言葉を言えば、相手を困らせることができますよ。



何で始まる言葉がいちばん多いか

本文約千八百ページの国語辞典の行ごとのページ数から、それぞれの行の音で始まる言葉のおおよその割合を出してみました。多い項目がカ行の二〇%、サ行一九%、ア行一四%。少ない方では、マ行が六%、ナ行が五%、ラ行、ヤ行は三%でした。ヤ行はヤユヨだけです。ラ行はラリルレロで三%のラ行の少なさは際だっています。

ア段からオ段までの段(母音)別では、最も少ないのはエ段です。日本語の母音は古くはアイウオの四つだったとされています。エは、アイやイアという母音がつながって生まれたとされます。そこで、エ段の音(エケセテネヘメ)の和語は全体的に少なく、言葉の最初にも来にくいようです。

また、濁音で始まる言葉はやはり、欧米から来た外来語や、中国語に由来する漢語に多く、全体として数は多くありません。「抱く」「ばら(薔薇)」など、現代語では濁音で始まりますが、もともとは、「いだく」「うばら」と言いました。最初の音が落ちて、濁音が前に出たために生まれた言葉です。

ラ行に加えて、エ段または濁音で終わる言葉をたくさん考えておけば、しりとりチャンピオンにきつとされるはずですよ。